

第2回音声ドキュメント処理ワークショップ開催報告

秋葉友良 (メディア科学リサーチセンター, セマンティックアーカイブコア)

第2回音声ドキュメント処理ワークショップは、平成19年2月の第1回ワークショップに引き続き、メディア科学リサーチセンター主催、情報処理学会音声言語情報処理研究会 (SIG-SLP) 共催のもと、平成20年2月29日から3月1日の2日間にわたり本学情報メディア基盤センターマルチメディア教室にて開催した。本ワークショップは、講義・講演・放送番組・ネット上のマルチメディアコンテンツなどの音声を含む様々なデータを、言語の知識・記録形態としての「文書」として扱う音声ドキュメント処理に関する研究・技術の発展を促進することを目的としている。

一般発表セッションでは、音声ドキュメントの認識、質問応答・対話、検索、シーン検出・分割や、講義・講演処理、応用システムといった21件(昨年度22件)の発表が集まった。また、音声ドキュメント処理の応用として期待される研究分野に関して、東京大学相澤清晴教授に「ライフログ」、名古屋大学長尾確教授には「ディスカッションマイニング」の各テーマについて、特別講演をお願いした。ワークショップには2日間で75名(うち本学以外46名)の参加者があった。初日の会議終了後に企画した懇親会には、約31人(学外22人)が参加した。

本ワークショップでは、第1回ワークショップと同様、情報処理学会音声言語情報処理研究会のもとで活動を行なっている音声ドキュメント処理ワーキンググループの活動の一環として、講演データの研究利用のため、ワークショップで発表した講演に対する講演の収録を行なった。収録したデータは、発話書き起しなどのメタデータ付与を行なった後、研究利用として公開する予定である。第1回第2回共に、会場は終始満席の状態を活発な議論が行なわれ、この分野への関心が高まっていることが感じられた。そのため、第3回ワークショップを2009年の初頭に開催することを計画している。